



AIR断震 倶楽部通信 58

世界初!空気の力で家を浮かす!
揺れない家が家族を守る



「究極の地震対策住宅」の株式会社三誠AIR断震システムです。
株式会社三誠AIR断震システムは、株式会社三誠のグループ会社です。
両社の担当者と名刺交換させていただいた方々に配信しております。
※このメールはテキストメールでもご覧になれます、HTML形式で配信しております。

南海トラフ地震の本当の恐ろしさ 首都圏機能の麻痺が第2次災害を引き起こす

★日本列島が持つ「10の脆弱性」——巨大災害を招く構造的条件

今後予想される南海トラフ地震の恐さは、「日本列島が持つ自然災害に対する脆弱性」と、1923年に発生した「関東大震災時と比較した社会構造の変化」によって増幅されると指摘しているのは、国土地理院総合研究所所長、元国土交通省道路局長・技監 大石和久氏です。大石氏は「日本列島が抱える自然災害への脆弱性」を別表のように10項目挙げています。

●日本列島が抱える自然災害に対する10の脆弱性

| | |
|--------|---|
| ①国土形状 | 南北2000km、東西2000kmに及ぶ細長い国土(幅は最大で250km程度) |
| ②四島 | 海峡により陸地が分断。多数の島しょ部で構成 |
| ③脊梁山脈 | 細長い国土を2000m球の山脈が縦貫し、日本海側と太平洋側に二分 河川は急勾配で短く、流域面積も小さい (国土は109の一級水系と2722の二級水系が作る分水嶺で細かく分割) |
| ④地質 | 国土面積の70%を占める山岳地帯は、崩落しやすい風化岩や複雑な岩種で構成 |
| ⑤平野 | 河口部か山間盆地にしか平野がなく、狭い平野が分散している上に、国土面積に対する比率が小さい(低地:13%、台地:12%)すべての大都市は河川の氾濫区域に存在 |
| ⑥軟弱地盤 | 大都市のほとんどが軟弱地盤の上にある |
| ⑦地震・津波 | 国土面積が世界の地表面積の0.25%しかないのに、マグニチュード4以上の約10%が日本で発生(マグニチュード6以上では全世界の20%) |
| ⑧豪雨 | 多雨: 地球総平均(800ミリ)の2倍以上の年間降雨(1400~1600ミリ)があるが、梅雨末期と台風期に集中(⇒脆弱な水資源、大きな災害リスク) |
| ⑨強風 | 台風の通り道に沿うかたちで列島が展開 |
| ⑩豪雪 | 国土面積の60%が積雪寒冷地域(年間累計降雪深4m超の豪雪地帯に大都市が存在) |

図表: 国土地理院総合研究所所長、元国土交通省道路局長・技監の大石和久氏作成

★首都圏が抱える致命的な15の問題——社会構造の変化が被害を大きくする

大石氏はさらに、南海トラフ地震や首都直下地震が発生した場合、東京は直接的な揺れだけでなく、社会機能の麻痺・インフラの停止・人口集中による混乱など、複合的な危機に直面する危険性を指摘しています。過度な人口・機能集中、脆弱なエネルギー供給、避難空間の不足、木造密集地域の火災リスク、復旧のための建設労働力の減少、SNS時代のデマ拡散、地域コミュニティの弱体化、公共部門の機能不全、電柱倒壊による交通遮断で都市封鎖などの大きな問題が未解決状態だと懸念しています。「15の問題」の詳細は、当社のHPで紹介します。



国土地理院総合研究所所長、元国土交通省道路局長・技監

大石氏のYouTube講演

https://www.youtube.com/watch?v=5zJ0p_NVNfI

「南海トラフ本当の恐ろしさ」が当該の講演です。

詳しくはHPへ▶

地震が起きたその時、家を浮上させいのちと家財を守る!

「エアーブルームシステム」

地震の揺れを感じると瞬時にセンサーが作動。エアータンクから空気を送り込んで家を浮かせ、揺れを建物に伝えづらくします。

震度7の揺れを約1/30に軽減



▲国立研究開発法人 防災科学技術研究所での実証実験の様子

震度7を想定した住宅の浮上実験をご覧ください。

詳しくはHPへ▶

バックナンバー▶

資料請求▶

展示会場▶

☆☆私たちは、地震災害から一人でも多くの命を守るために本気です!!

この思いにご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

《送信者》

株式会社 三誠AIR断震システム

〒104-0033 東京都中央区新川1-6-1 2 M&Sビル3階

TEL: 03-3551-0272 FAX: 03-3551-0273

info@airdanshin.co.jp <https://airdanshin.co.jp>

※このメールの内容に関するご意見・ご質問は[こちら](#)